
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2017年No.6 (2017.11)

・ 秩父宮賜杯第 49 回全日本大学駅伝対校選手権大会

5 時間 41 分 25 秒で惜しくも部記録に届かず

・ 第 35 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会

東北学連選抜チームとして宮間 (M2) が出場

・ 第 29 回出雲全日本大学選抜駅伝競走

東北学連選抜として高橋(M2)、酒井(3)、松浦(2)が
出場

・ 第 72 回国民体育大会

宮崎(M1)が成年男子 100m、青年少年共通 4×100m
リレーに出場

・ 第 29 回出雲全日本大学選抜駅伝競走 2～3 ページ

・ 第 35 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 3～4 ページ

・ 秩父宮賜杯第 49 回全日本大学駅伝対校選手権大会 4～8 ページ

・ 第 72 回国民体育大会 8 ページ

・ 第 46 回東北学生陸上競技選手権大会 9 ページ

・秋保マラソン	9 ページ
・自己ベスト更新者	10 ページ
・今後の予定	10 ページ
・編集後記	10 ページ

向冬の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、秩父宮賜盃第 49 回全日本大学駅伝対校選手権大会の結果を中心に、各大会における選手の活躍をお伝えします。

◎第 29 回出雲全日本大学選抜駅伝競走(10/9)・・・出雲大社～出雲ドーム(島根)

今年の出雲駅伝は地方学連選抜を含む 21 チームにより争われました。東北大学からは、高橋(M2)、笠間(3)、酒井(3)、松浦 (2)の 4 人が東北学連選抜として選ばれ、当日は高橋、酒井、松浦が出場しました。選手のコメントを掲載します。

第 1 区 松浦 崇之 (2)

結果は 25'12 で区間 18 位でした。当日は気温が 28 度を超える暑さで、過酷なレースでした。その中で、自分の走りをしましたがまったく満足できる結果ではありませんでした。もっと強くなりたいと強く思った大会でした。今まで、関東勢は速すぎるからと、全く見えない存在だと思い込んでいましたがそれは全くの誤解で、本当はずっと見なかっただけでした。いつまでも、関東は別世界とっては関東勢に勝つことはおろかしていくこともできないと感じた大会でした。3 大駅伝の 1 つである出雲駅伝の 1 区をまだ 2 年生のうちに経験できたのは大きいと思います。この経験を今後の私の成長に役立てていきます。

第 2 区 酒井 洋輔(3)

春先から継続して練習を積んでいたのも、実力自体は伸び続けていましたが、直前に不調に陥り、不安を残したままレースに臨むことになりました。更に当日は気温 30℃近くと、暑さの苦手な私には最悪のコンディションでした。しかし蓋を開けてみれば、自分よりも格上の選手何人かを上回る区間 12 位と、自分の実力以上の結果を出すことができました。本当に長距離という種目はレース当日、実際に走って見ないと結果は分からないな、と改めて感じました。

最後になりますが、応援して下さった方々、サポートして下さった方々には深く感謝申し上げます。

第 6 区 高橋 佳希(M2)

目標としては、学部 2 年から 5 回連続での出場(一度台風で中止)であり、チーム内でも圧倒的に最多出場であるので、後輩達に自身のノウハウを伝えると同時に、来月の全日本大学駅伝に向けていいイメージの持てる走りをするのでした。

レース当日は 28 度近くまで気温が上がり、1 区から途中棄権のチームが出るなど、厳しいコンディション。自身が襷を受け取ったときには前も後ろも 2 分近く離れていて、他の走者がまったく見えない、完全な一人旅となりました。結果として 32' 28" で区間 15 位とタイムと区間順位ともに物足りない結果であり、チーム順位も押し上げることが出来ませんでした。しかしながら、厳しいコンディションの中で 10km 以上単独走でも大崩れせずにまとめた走りが出来た点は評価できます。また、今大会で初の出雲駅伝出場となった本学の 1 区松浦(2)や 2 区酒井(3)が好走しました。来月の全日本でも主要区間を担う予定であり、本大会

に向けて大いに期待の持てる結果であり、東北大学としても収穫の多い大会となりました。最後になりますが、このような全国規模の大きな駅伝大会に 5 回も出場させていただき本当にありがとうございました。今後は東北大学だけでなく、東北地区の長距離全体が盛り上がっていき、少しでも他地区の強豪校と肩を並べていっていただければと思います。

◎第 35 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(10/30)・・仙台市

東北学連選抜として宮間(M2)が選ばれ、当日は宮間が 6 区を走りました。
出場選手からのコメントを紹介します。

第 6 区 宮間 志帆(M2)

10 月 29 日に仙台市内で行われた第 35 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会において、東北学連選抜の主将としてアンカーの 6 区 (5.2 km) を走らせていただきました。本大会には学部 1, 2 年, 修士 1 年生の時に出場させていただいたため、4 回目の出場でした。今回は最後まで襷を繋ぐこと、東北学連選抜チームの過去最高順位 (19 位以内) をチーム目標としていました。個人結果としては区間記録 18' 48 で 21 位, チームとしては 1 時間 15 分 49 秒で 22 位相当でした。目標の順位は達成出来ませんでしたが、久しぶりに最後まで襷を繋ぐことができました。

今大会で 12 年間続けた陸上競技は一区切りと考えていたので、慣れ親しんだ道で、お世話になった方々の応援を受けて走りたいと考え、最終区を志願しました。また、今季はひとりでペースを刻むレースが多く、自分らしい走りができると考えていました。台風による悪天候でのレースになりましたが、タイムは実力通りであり、力不足で満足のいく結果ではありませんでしたが、これまでの集大成として、多くの方々の応援を受けて走ることができて幸せでしたし、繋がると思っていた襷をゴールまで運べて嬉しかったです。

今大会では学生として最後に全日本に出場できるありがたみを感じながら、沿道の応援や運営に支えられて走ることができ、感無量でした。最後になりますが、大会を運営してくださった学生陸上競技連盟、アルバイト、補助員や、沿道およびテレビで応援してくださった部員、OB・OG の皆様をはじめとする、これまで支えてくださった多くの方々に心より感謝申し上げます。また、この大会で東北大の後輩が活躍してくれることを OG として楽しみにしています。今までありがとうございました。

◎秩父宮賜盃第 49 回全日本大学駅伝対校選手権大会(11/5)

・・熱田神宮(愛知)～伊勢神宮 (三重)

東北大学は 9 月 14 日に行われた東北地区予選を通過し、5 年連続 12 回目の本大会出場となりました。今年は戦力層も厚く、チームの目標であった東北大学記録の更新が期待されましたが惜しくも 5 秒届きませんでした。新潟大学と北海道教育大学には勝利し、他の地方国公立大学に勝つという目標は達成しました。出場した選手のコメントを掲載します。

第1区 松浦 崇之(2)

結果は、48'00 で区間 24 位でした。陸上人生で一番悪い走りでした。チームとしても部記録まで 5 秒足りませんでした。PC から安定な走りができ、失敗しないという理由で 1 区を任されたのに、全てを台無しにしました。自分でも何がいけなかったのかは全て分かっています。だからこそ、悔しくて、襷を渡し中継所に入ってから涙が止まりませんでした。こんなに自分自身を情けないと思ったことは初めてでした。しかし、だからこそ、これからが大事になってきます。この悔しさを胸に来年はもっと強くなって、誰からも頼られるエースになって、また全日本に戻ってきます。最後に、遠くから応援に来てくださった多くの部員および OBOG の皆様、本当にありがとうございました。これからも東北大学学友会陸上競技部をよろしくお願いいたします。

第2区 酒井 洋輔 (3)

選手として出場するのは 2 回目となります。とはいっても、まだまだ新人として伸び伸びと走らせてもらった去年とは違い、今年はチームの主力選手として、レース前からプレッシャーに苦むこととなりました。特に今年は、部記録更新が現実的な目標となりつつあったということもあり、自分がチームを引っ張らなくてはいけないという責任感で、練習も自然とハードなものになっていました。なんとかプレッシャーに耐え、準備も万全で臨んだレース前日、あまりの緊張で私は眠ることができなくなってしまいました。睡眠不足の状態で行ったレースで成功したことが一度もなかったこともあり、当日は大いに不安を残した状態でレースに臨むことになりました。しかし、結果としては二区の部記録を更新でき、自分の実力を出し切ることができました。これは睡眠不足だからといって諦めず、自分を何とか奮い立たせた成果だと思います。

当日は多くの方々が遠路はるばる応援、サポートに駆け付けて下さいました。特に応援は、13.2km の長丁場の中、私の心を支える大きな力となりました。応援して下さいました方々、サポートして下さいました方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



▲力走する酒井

第3区 立野 佑太 (2)

部記録とここ何年も繋がっていない 3 区と 4 区の襷を繋ぐというのを目標に走りました。レース序盤は、最短区間とはいえいつも自分の走る距離の倍近いので、ペースは抑えめで入りました。中盤以降はコースの起伏や単独走だったのこともありかなり疲労していましたが、ラスト、4 区の齋藤さんの姿が見えたこともありスパートをかけて繋ぐことができました。レース中、沿道からの絶え間ない応援のを感じながら、終始楽しく走ることができました。部記録の目標を達成できなかったことは残念でしたが、自分の今のベストの走りはできたと思います。最後になりますが、遠方からの応援、サポートのおかげで今回走ることができました。本当にありがとうございました。

第4区 齊藤 寛峻(D2)

今回は私がこれまで見てきた8年間の中でも最もチーム全体のレベルが高く、またコース変更前の最後の大会、エースとして長年チームを引っ張ってきた高橋佳希がラストイヤーといった事情もあったことから目標である東北大学記録更新を強く意識して臨んだ大会でした。終始一人で走る展開となりましたが、自分の持ち味である冷静なペースコントロール・後半のビルドアップや今シーズンの練習の成果をしっかりと発揮することができました。追い風だったこともあります。タイムも想定より良く、自分の持てる力はしっかりと出すことができたと思います。

チーム全体としても持てる力は発揮できたと思いますが、わずかに5秒目標には届きませんでした。何としても今回記録更新を達成しようと臨んでいただけに大変残念な結果ではありましたが、東北大学記録更新を目標に掲げて6分以上届かなかった5年前から年々タイムを縮め、ここまで来ることができたことは価値あることだと思っています。またいつも途切れる3,4区間で襷を繋ぐこともできました。1区序盤からハイペースだと聞いていたため厳しいかと思っていましたがギリギリのところまで大学名を呼ばれ、コースに出て3区立野に夢中で声をかけました。個人として4回目の出場にして初めて襷の受け渡しをすることができ本当に良い経験、思い出になりました。今回も様々なご支援、応援をいただき本当にありがとうございました。



▲快走する齊藤

第5区 笠間 淳平(3)

自分にとっては、4回目の全国の舞台でのレースとなりましたが、振り返ってみれば、以前にも増して自分との戦いであった1年間でした。私が任された5区は、11.6kmで決して長いわけでも、エース級の選手がごった返しているわけでもありません。しかし、自分の周りには自分より力の強い選手ばかりという状況は変わりありません。そんな中での、人生で初めて経験する一斉スタートでした。今年は合同練習に行けることが少なくなっていました。一人での練習を強られる中で臨んだ全国の舞台。今まで以上の緊張と、不安。同期のPCである上條に、ちゃんと部記録を贈ることができるのか。最後の最後まで、その不安をぬぐうことはできず、スタートしてしまいました。結果的には、何とか粘り抜き、役目は果たせたと思います。今まで積み上げてきた全国の舞台での経験に助けられました。しかし、どうしても、あと自分が5秒速ければ、と後悔してしまいます。おそらく、一生ぬぐえない後悔の一つになるでしょう。4年生となる来年に向けて、次こそは、と決意を固めます。

最後になりますが、仙台から現地に、駆けつけてくれた部員の皆さん、全国各地から応援していただいたOB・OGの皆さんのご声援あってこそこの部歴代2位記録だったと思います。本当にありがとうございました。

北大と競る笠間▶



第6区 南雲 信之介 (6)

まずは遠路はるばる応援に来てくださった皆様、テレビなどを通じ応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。感想を端的に述べると、「苦しくて、悔しかった、それでも幸せな時間だった」です。まず、苦しい、という点についてです。気温が多少高く、風も向かう時が多かったという気候の面、中盤から後半にかけて、腹痛に襲われ、しかも足裏まで痛くなるという身体的な面、前に行く北大の選手になかなか追いつけないという心理的な面の3つで苦しみました。

次に、悔しい、という点です。これは部記録更新のチャンスを自らつぶしてしまったという点に尽きます。先の通り、苦しみながら走った結果、昨年よりも30秒程度遅くなってしまいました。

しかも、部記録まであと5秒。区間部記録(39分20秒)を更新する意気込みで望んだにも関わらず、結局皆が作ってくれた貯金を食ってしまい、足を引っ張り、最終的な目標達成にほんのわずか及ばないという結果を招いてしまいました。本当に悔しかったです。

最後に、それでも幸せな時間だった、という点です。これは、応援に来てくれた部員の皆を始め、沿道の方々、北大の方々、東海学連の補助員の方、いろんな人に、声をかけてもらえたからです。苦しくても何とか走り切れたのも、何とか前の北大の選手を抜けたのも、応援があったから、チームの目標を叶えたいと頑張れたからだと思っています。こんなにも盛大な応援を受けて、部の代表選手として走る経験はもう二度とできないだろう、そう思わせてくれるくらい、力強い声援を受けることができ自分には幸せです。

また、学部1~4年までの自分は3年連続での補欠でしたが学部5、6年と2年連続で伊勢路を走ることができました。そのような意味で、成長した自分を同期や先輩方に見せることができた点でも幸せです。皆の前で伊勢路を走ることができて本当に幸せでした。応援本当にありがとうございました。

第7区 早坂 謙児(M1)

5年目にして初めての13人メンバー入り、出場ということで、これまでは見るだけだった伊勢路を走ることが出来て感無量です。これもOBOGのみなさまのご支援のおかげであると、ひしひしと感じます。さて、肝心のレースの方は、北海道大学と新潟大学との3校による早発で、国公立対決となりました。持ちタイムはほぼ同じの3人でしたが、北大が4年生、新潟大が1年生ということで、M1の自分は負けられないなと思っておりました。新潟大がはじめに前に出てくれたので、利用させてもらい、4~5キロから自分が前に出て50mほど差をつけてレースを進めました。中間6キロ過ぎの松坂駅前では東北大学の応援団がおり、力がみなぎってきました。ラストの2~3キロはきつかったですが、メンバー選考から漏れてしまった仲間の分もと思い走りきれました。結果としては、事前の目標に2秒遅れ、後ろは30秒以上差をつけられたということで、最低限の仕事はできたという印象です。来年の話をするとう鬼は笑うといいますが、5年連続8区を務めた佳希さん、2年連続6区を走った南雲さんがいなくなる分、自分が重要区間を走るという目標を立てました。これまでの5年間、東北大学は先輩方が抜けた穴を埋めて、成長し、記録を更新してきました。来年は自分が全体のタイムを引っ張りあげ、貢献します。今後ともご支援のほどよろしくお願い

いたします。

第8区 高橋 佳希(M2) |

結果は62' 40"で区間23位とタイム、区間順位ともに昨年より下げる形となっ
てしまい、集大成として不甲斐無い走りになってしまいました。また、チーム目標の部記録には5秒ほど届きませんでした。この要因は、過去4回も走っていながら、昨年の記録より30秒程遅く、まともな走りが出来なかった私に責任があると思っただけならば幸いです。本当に申し訳ありませんでした。他の部員は、個人個人では反省点があるのかもしれませんが、総じて最高の走りやサポートをしてくれました。

思い返せば4年前、伊勢路に久しぶりに出場した際は、自身も含めて、部員全員が初めての経験であり、出場することに精一杯でした。しかしながら、今年は関東などの強豪校に肉薄する走りや、部記録を更新できなかったことを本気で悔しがっている後輩たちの姿を見て、東北地区の予選会に勝利し「伊勢路に出場する」という段階から、他地区の強豪校と肩を並べて走る、「伊勢路で勝負する」という次の段階へと進んでいることを強く実感しました。私自身、最初の段階である「伊勢路に出場する」ということに微力ながら貢献出来たと自負しておりますが、いよいよ「伊勢路で勝負する」段階に入ろうとする後輩達に襷をリレーするタイミングが来たようです。(残念ながら、伊勢路で襷をもらうことも、渡すこともありませんでしたが…) 少し寂しい気持ちもしますが、5年連続最長区間、1人で100キロ近く伊勢路を走った私は、誰よりも伊勢路を走り、誰よりも伊勢路を楽しんだと思っているので悔いはありません。

最後になりますが、OB・OGの方々には今大会に限らず、長期にわたって様々な形で応援・支援していただき本当にありがとうございました。(村橋様には今年も遅くまで試走に連れて行っていただき、本当に感謝しております。) 来年からは、陰ながら、「伊勢路で勝負する」後輩たちの姿を応援したいと思いますので、よろしくお願ひします。



▲アンカーを務めた高橋

<上條 PC による今大会のまとめ>

今年の全日本大学駅伝は昨年と比べて一人一人のレベルが上がり、目標の東北大記録の更新にかなりの手ごたえを感じていた。しかし、1区から順調なレースではなかった。1区の終盤でアクシデントがあり、良い滑り出しをすることができなかった。1区が終わった時点で去年よりおよそ1分遅れており、不安が大きくなっていた。この2区以降もこの流れでいってしまうか心配であったが、2区は予想以上の快走、見事に悪い流れを断ち切った。その良い流れに乗り、3、4区の選手も快走し、4年連続3区で途絶えていた襷が今年はずながつた。4区終了時点では昨年よりおよそ2分半速かった。5区からは自信をもっていたのでこの時点で部記録更新は濃厚と思われたが、5区以降の選手が予定していたほど思うような走りができなかった。1区間ごとのマイナスは小さかった。

がそれが重なり、アンカーがスタートするところには部記録が更新できるかきわどいところだ

った。部記録の更新をアンカーに託す形となったが、最終的には部記録にわずか5秒及ばなかった。選手たちは全員が今持てる力を最大限に発揮しての結果だったのであろう。しかし、5秒足りず、部記録にここまで迫った、自分たちの力が伸びている実感よりも悔しさのほうが大きい選手が多かった。この悔しさ、今まで積み上げてきたものをさらに大きくし、来年また同じ舞台で目標に挑んでほしい。



▲上條・前PC(左)から
嶋田・新PC(右)への襷渡し

◎第71回国民体育大会(10/7～11)・北上運動総合公園北上陸上競技場(岩手)

北上市で行われた国体で、成年100mに宮崎(4)が出場し、4位入賞を果たしました。リザルトと選手の感想を紹介します。

成年男子 100m

・宮崎 幸辰(M1) 予選 2組6着 10"67(+0.7)

青年少年共通 4×100m リレー

・宮崎-吉高-高杉-石川(綜)
予選 3組6着 40"89

愛媛国体

宮崎幸辰

10月6～10日に開催された愛顔つなぐえひめ国体に岩手代表として出場いたしました。成年100mおよび共通4×100mRの結果は共に予選敗退で、どの種目も次のラウンドに進出することができなかつたのはとても屈辱でした。また、岩手チームのコーチの方々に対しては、謝罪の言葉しかありませんでした。私にとってはこの国体は、恩師の先生やコーチの先生方に日頃の感謝を結果で示せるということで、最も大切にしていた大会でした。そう思えば思うほど、悔恨の情が募るばかりです。

原因と対策に関しては、ここでは記しません。一つ言うとしたら、県のトップ選手と交流したことで、自分が甘い感覚、ぬるい環境にいることが再認識されました。冬期練習は厳しく行う予定です。

また、岩手代表として、国体の舞台に帰って来られるように、また一から頑張ります。

◎第 45 回東北学生陸上競技選手権大会(10/21～23)・仙台市陸上競技場

気温も低く難しいコンディションながら、東北大学各選手健闘を見せました。各種目 8 位以上の選手の結果を掲載します。

男子 800m 決勝	3 着	松田 将大(3)	1'58"53
男子 1500m 決勝	3 着	松田 将大(3)	4'02"32
男子 110mH決勝(-0.5)	6 着	勝井 友樹(3)	16"24
男子走高跳決勝	2 等	山下 一也(3)	2m00
	6 等	渡辺 智輝(2)	1m80
男子やり投決勝	8 等	新出 悠介(2)	47m67
女子 400m 決勝	1 位	佐貫 有彩(2)	57"57
女子 800m 決勝	6 位	飯田 夏生(3)	2'29"08
女子 100mH 決勝	3 位	泉屋 咲月(1)	16"07
女子 400mH 決勝	1 位	佐貫 有彩(2)	64"04
	7 位	泉屋 咲月(1)	69"73
女子 1500m 決勝	2 位	飯田 夏生(3)	4'56"87
	6 位	須田 桜(3)	5'02"45
女子 5000m 決勝	3 位	須田 桜(3)	18'21"13

◎秋保マラソン(11/11)

仙台市太白区秋保地区周辺で今年度も秋保マラソンが開催されました。各部門の優勝者と参加された OB・OG の皆様をご紹介します。

- ・18km 優勝 堀 拓磨(2) 59'07" ・跳躍 1 位 松岡 恭平(2) 80'27"
- ・女子優勝 上條 麻奈(2) 60'00" ・マネージャー 鈴木 日向子(1) 53'17"
- ・短距離 1 位 岩波 発彦(3) 69'58" ・9km の部 荒田 啓輔(3) 28'29"
- ・中距離 1 位 村松 兼志(1) 66'21" ・4km の部 米山 知里(3) 21'53"

参加された OB・OG(敬称略)

菅原 質 (S42)、及川 拓郎 (S47)、佐藤 健二 (S52)、佐藤 源之 (S55)、真山 隆徳 (S56)、渡邊 朝生 (S58)、遠藤 正淑 (S59)、渡邊 祐生 (S62)、彦坂 幸毅 (H2)、田中 直樹 (H29 修了)

◎自己ベスト更新者(9/26～11/15)

・女子 400mH

佐貫 有彩(2) 1'04"04 (東北総体)

(この記録は部記録になります!)

・女子 5000m

橋本 悠実(1) 20'03"28 (東北総体)

・女子 20kmW

白井 花(3) 1時間59分28秒

(全日本 50km 競歩高島大会)

(この記録は部記録になります!)

・女子砲丸投

渡邊 朝美(2) 10m17 (仙台大競技会)

◎今後の予定

・12月4日(日)

三秀総会

ビアレストラン新宿ライオン会館7F (東京)

・3月

卒業祝賀会

東北大学 (仙台)

・3月

春合宿

◎編集後記

全日本大学駅伝や秋の記録会シーズンが終わり、冬季練習の時期になってきました。冬季に地道な練習を積み重ねることが来シーズンの活躍のために重要だと考えられます。しっかり目標を持ち、怪我に気を付けながら、部員一同冬季練習に励んでまいりますので、今後とも応援よろしくお願ひします。

【文責 副務 平野慎也】

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp